

——芸術作品から自然、風景、都市景観を考える——

仲間裕子

西洋美術史、美学を専門とし、主に19世紀～21世紀美術を研究対象としている。近年は風景論を中心に、人間と自然の新たな視点からの考察を試み、「認識」と「構築」の自然の風景像－21世紀の風景論」の研究プロジェクトを国内外の研究者とともに進めている。

1. 専門演習の目標

芸術作品は、単に作家個人の主張のメディアであるだけでなく、作品と観者との相互的なダイアログによってその存在理由を深める。芸術を通して、今、自然とどう向き合えるのか？というアクチュアルな問題と取り組んでほしい。

2. 専門演習で扱う課題と内容

課題：芸術作品（美術、写真、建築、舞踊など）に現れた自然の表象を分析し、今世紀の自然観を考える。研究対象となる作品、あるいは理論をみずから決定し、文献調査、フィールドワークなどを通して、この課題と取り組む。

3. 授業の進め方・内容

3 回生前期：風景の表象をさまざまな視点から考えるため、各受講生が美術、写真、建築などジャンルを選び、ジャンル別のグループ発表を行う。京都市（あるいはその近辺）の美術館が所蔵する風景作品や建築／都市景観について、フィールドワークと報告を行う。

3 回生後期：面談を通して個人の研究テーマを決定し、卒業研究に向かって調査と考察を具体的に始める。テーマ発表とレポート提出を行う。

4 回生前期、後期：テーマ発表とレポート提出。卒業研究論文に向かって段階的に考察を進める。

4. 必要とする知識

芸術の作品と歴史を知ること。美術史、美学、文化論、メディア学、社会学など広い領域から芸術を学問的に（客観的に）考える「術」を身につけること。

5. 関連する分野・科目・知識

美術史、美学、文化論、メディア学、社会学、人類学など。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

仲間裕子「ひとつの仮想美術展：20世紀美術におけるディスクール」（佐藤嘉一著「＜方法＞としての人間と文化」、ミネルヴァ書房、2004／2005年）。

7. 独自に付加する選考方法

演習テーマをいかに真剣に取り組もうとしているのかを重視する。

8. 受講生に望むこと

充実したゼミ発表、レポート提出ができるよう、熱意をもって研究・調査と取り組んでください。